

1 水道事業事業ビジョン策定にあたって

～水道事業ビジョン策定の背景と目的～

- 本町の水需要の傾向は、利用者の節水意識の高まりや節水機器の普及により、一人当たりの利用量は減少傾向を示していますが、本町全体の水需要は人口増加の影響により増加傾向にあります。
- 一方で厚生労働省は、少子高齢化による全国的な**人口減少社会の到来**や、**東日本大震災の経験**など社会現象の変化を踏まえ、50年、100年後の将来を見据えた水道の理想像及び方策を提示した「**新水道ビジョン**」を平成25(2013)3月に策定・公表しました。
- また、令和元年10月1日に「水道法の一部を改正する法律（水道法改正法）」が施行され、今後は水道の基盤強化に関する施策が推進されることになります。
- これを受け、本町では**水道事業のマスタープラン**として「**滑川町水道事業ビジョン**（以下、本ビジョンといいます。）」を策定・公表し、**持続可能な水道事業**を目指し、50年、100年後の将来を見据えた**基本理念**と**水道の理想像**を設定し、それらを**実現するための目標と方策**を示します。

～計画期間～

- 令和2(2020)年度～令和16(2034)年度の15年間**を計画期間とします。

～位置付け～

- 本ビジョンは、「新水道ビジョン」（厚生労働省）、「埼玉県水道整備基本構想（埼玉県水道ビジョン）」（埼玉県）、「第5次滑川町総合振興計画」（滑川町）の内容に即します。

2 水道事業の課題

～水需要～

- 適切な規模の施設整備と事業運営を行っていく必要があります。

～施設の状況～

- 配水池を長期に渡り使用できるように努める必要があります。
- 古い**TS継手の硬質塩化ビニル管**を優先的に更新する必要があります。
- 管路の耐震化**を計画的に推進することが求められています。
- 施設・設備・管路などの**資産情報を適切に管理**し、更新及び修繕を実施する必要があります。

～事業運営の状況～

- 健全な経営を今後も継続していくことが求められます。
- 人材育成・技術継承**の取り組みを積極的におこなう必要があります。
- さらなる**業務効率化**を推し進める必要があります。
- 広域化のスケールメリットを生かした事業の**基盤強化**や**効率化**について、関係事業体間で検討を重ねる必要があります。

～水質管理の状況～

- 浄水の水質は埼玉県企業局に依存することから、より良質な水道水を供給するために、**埼玉県企業局との連携強化**に努める必要があります。
- 水道水の供給に対する安全性をより高める必要があります。

～災害対策の状況～

- 地域防災計画を適切に履行する必要があります。
- 応急給水資機材を計画的に調達・備蓄する必要があります。
- 地域との連絡体制**を整え、非常時に素早く対応できるようにする必要があります。
- 災害に対する備えを、より充実させることが求められます。

～環境対策の状況～

- 技術革新などにより、より有効な環境対策技術が現れた場合は、導入の検討を行います。

3 水道事業を取り巻く将来の環境

～人口と給水量～

- 本町では、平成27(2015)年12月に「滑川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、そのなかで「滑川町人口ビジョン」として長期の目標人口を定めました。その人口推計では令和22(2040)年度に**21,000人**、令和42(2060)年度に**22,000人**に達するとしています。
- 給水量は、給水人口一人当たり給水量が減少傾向にあるため、人口ほど増加は見込めず、**令和8(2026)年度にピーク**を迎え、以降は**ゆるやかな減少**に転じる見通しです。

～施設の効率性の見通し～

- 水需要が横ばいから減少傾向の見通しであることから、施設利用率や最大稼働率についても**横ばいから減少**となる見通しです。

～施設の健全度～

- 今後一切の対策も行わなかった場合は、健全資産は徐々に減少していく見通しです。

～資金の確保～

- 資産を健全な状態で保つためには、順次更新事業を実施しなければなりません。アセットマネジメントでは、更新基準に基づき資産を更新した場合に平成30(2018)年～令和59(2077)年の**60年間**で見込まれる更新需要は約**103.3億円**と試算されています。また、今後は更新需要が増大していく見通しです。増大する更新需要を賄うために、様々な**コスト削減策**や**資金確保策**を講じる必要があります。

～人材の確保～

- 今後は更新需要が増大することにより**職員の負担も増加**する見通しです。増大する更新需要や非常時の対応力の保持や技術の継承のためにも、適切な**人材の確保**と職員全体の**スキルアップ**が必要です。

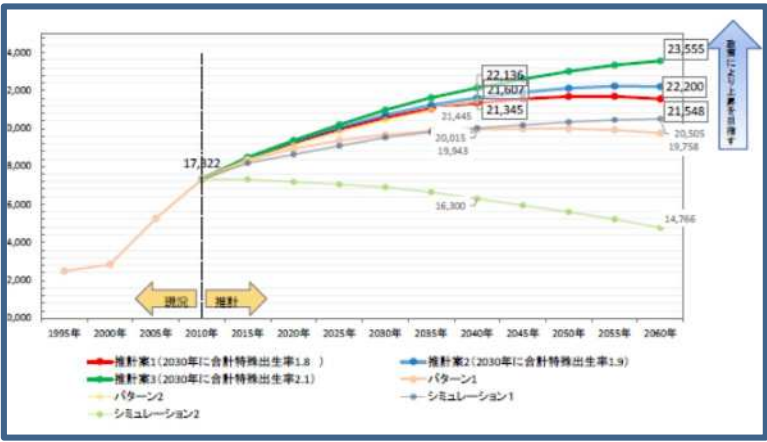


図 1.将来展望人口（第5次滑川町総合振興計画より引用）

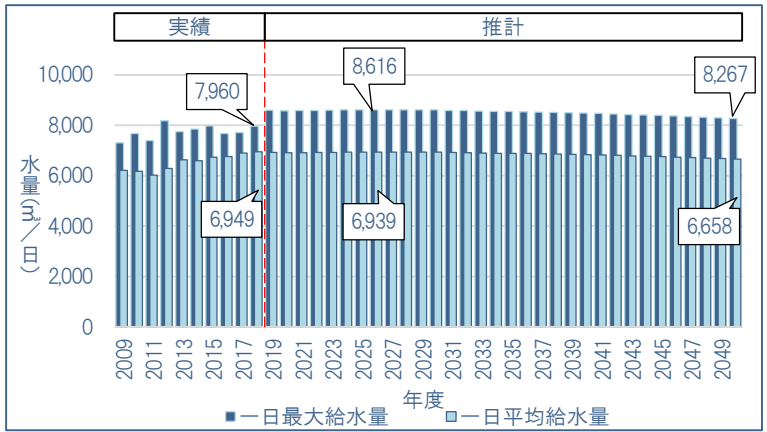


図 2.給水量の見通し

表 1.施設利用率と最大稼働率の推計値

番号	指標名称	単位	望ましい方向	実績値	推計値	
				2018	2026	2050
B104	施設利用率	%	↶	76.4	76.3	73.2
B105	最大稼働率	%	↶	87.5	94.7	90.8

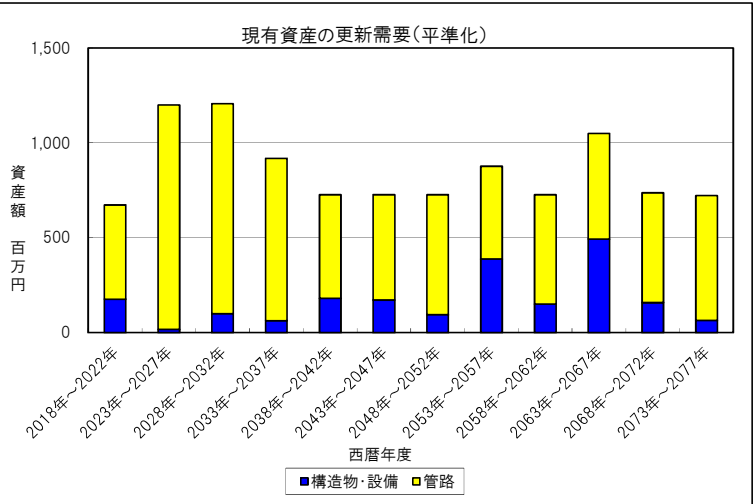
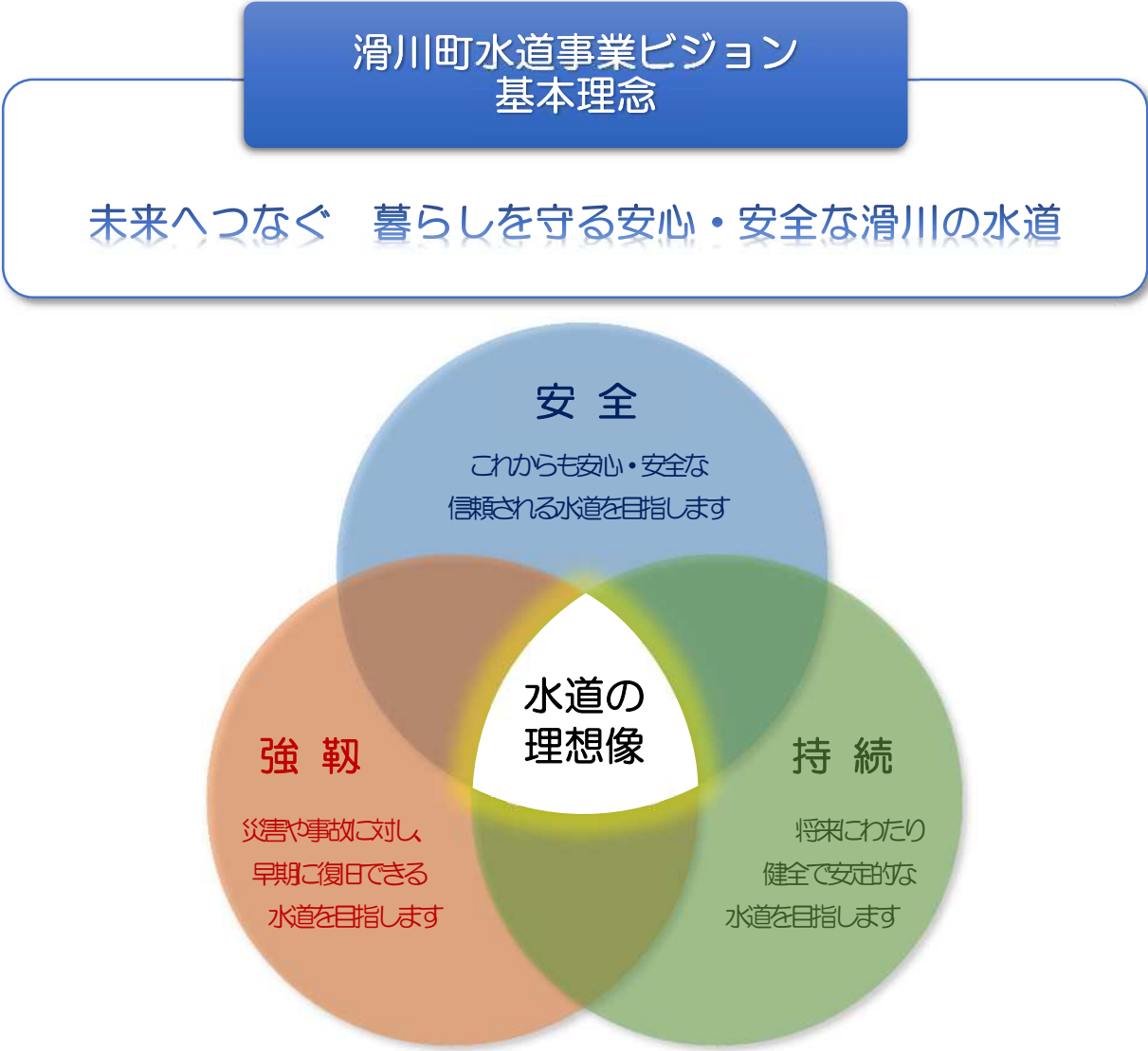


図 3.現有資産の更新需要

4 基本理念と理想像



～計画の目標値～

- 水道の理想像を具現化するために、施策に関する目標値を設定します。この目標は、計画期間内の達成を目指します。

表 2.計画期間内における目標値

理想像	業務指標	指標 番号	平成30年度 (2018年度) 実績値	令和16年度 (2034年度) 目標値
安全	末端監視局設置数	-	0基	2基
強靱	重要給水施設配水管路耐震管率	B607	29.3%	70%
持続	経常収支比率	C102	116.8%	同水準を維持

5 施策と実現方策



6 フォローアップ

- 本町水道事業では、PDCA サイクルと活用することにより、計画の評価・検証を定期的におこない、事業のスパイラルアップを図ります。
- 施策及び実現方策の進捗状況や定量的な評価・検証は、「水道事業ガイドライン」に示された業務指標（PI）を用いて毎年度おこない、施策の修正・改善を図ります。
- また、社会情勢の変化、自然環境の変化、水需要の変化など想定外の難しい状況の変化に対応することを考慮し、計画に大きな差異が生じた場合には見直しを図ります。

